

知的障害特別支援学級 自立活動 学習指導案

日 時：令和6年11月15日（金）第5限

指導者：松本 真子

場 所：さなえ1組教室

1 題材名 「人と上手にかかわろう」

2 題材の目標

- (1) 相手の言葉や表情、行動などから、相手が考えていることや感情を理解し、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを適切に伝えたりすることができる。 【知識及び技能】
- (2) 自分と他者の意図や感情について考え、他者の感情に配慮して自分の考えや感情を伝えるために必要な方法について考えをもつことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 具体的な場面で、自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして相手と適切にかかわることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| 知 相手の言葉や表情、行動などから相手が考えていることを推測したり、感情を理解したりしている。 技 相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりすることができる。 | 他者の立場を尊重し、他者の感情や状況に配慮しながらも、自分の考えや感情を伝えるために必要な方法について考えをもっている。 | 具体的な場面で相手の立場や状況、感情を配慮したかかわり方を考え、相手との適切なかかわり方を考えている。 |

4 指導に当たって

(1) 生徒観

当日の指導案集をご覧ください

(2) 教材観

本題材は、特別支援学校学習指導要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）第7章 自立活動 第2内容

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。

6 コミュニケーション

- (2) 言語の受容と表出に関すること。

に関する指導を取り上げる。

学校生活や将来の社会生活を営む上で、他者を思いやり、相手を大切にしながら自分の考えや気持ちを伝えることができるように本題材を設定した。また、他者とのかかわりの中で人間関係や年齢、場面に応じた適切な伝え方ができるよう、さまざまな場面を設定し学習する。

(3) 指導観

日常的な場面を取り上げることで、それぞれの生徒が自分の困難さを受け止められるよう、どんな自分になりたいかを考えさせ、課題解決に向けた主体的な活動につなげる。また、他者とのかかわりの中で自分の思いを伝えられるようにするために、ペア活動を中心にロールプレイや絵カードを取り入れ、状況の把握や自分の思いの表出、相手や場面にふさわしい表現方法について考えさせる。今後の学校生活や将来の社会生活においても、場や相手に応じたコミュニケーションが円滑にできるように、可視化して残したり、活用場面を意図的に設定したりし、実践につなげていきたい。また、対人関係における緊張や、考えを言葉にして目的に沿って話す緊張を軽減させるため、クロームブック等の情報機器を代替手段として使用することも選択できるようにしておく。

5 指導と評価の計画（総時数4時間）

| 時間 | 学習活動 | 評価規準【観点】 |
|----|---|---|
| 1 | 相手の言葉や表情、行動などから相手が考えていることを推測したり、感情を理解したりする。 | 相手の言葉や表情、行動などから相手が考えていることを推測したり、感情を理解したりしている。 【知識】 |
| 2 | 自分の考えや感情を伝えるときに、他者の立場を尊重し他者の感情や状況に配慮した伝え方を考えている。 | 他者の立場を尊重し、他者の感情や状況に配慮しながらも、自分の考えや感情を伝えるために必要な方法について考えをもっている。 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 |
| 3 | 具体的な場面で相手の立場や状況、感情を配慮したかかわり方を考え、相手との適切なかかわり方を考える。 | 具体的な場面で相手の立場や状況、感情を配慮したかかわり方を考え、相手との適切なかかわり方を考えている。【主体的に学習に取り組む態度】 |
| 4 | 相手の意図や気持ちを受け止め、自分の考えを伝える。 | 相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりすることができる。【技能】 |

6 学校研究との関わり

◇視点Ⅰ 生徒一人一人の可能性を引き出す工夫

- (1) 身近な先生の動画を提示することで、話す人の言葉、表情、行動などからの感情や伝えたい思いを想像しやすくする。
- (2) ペア活動やロールプレイを取り入れることで、多面的・多角的に考えられるようにする。

◇視点Ⅱ 自己決定の場の工夫

- (1) 多面的・多角的に考えた方法の中から、自分が実際にできそうなこと（やってみようと思うこと）を1つ決めて実践につなげる。

7 生徒の実態と目標

当日の指導案集をご覧ください

8 本時の学習（第2時）

(1) 小題材名 「お互いに考えや気持ちを伝えよう」

(2) 本時のねらい

- ・自分と他者の意図や感情について考え、他者の感情に配慮して自分の考えや感情を伝えるために必要な方法について考えをもつことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・具体的な場面で、自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして相手と適切にかかわることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 本時の展開

| | | |
|---------|---|---|
| 配時 | ○主な学習活動 ・予想される生徒の思考や発言 下線生徒が ICT を活用する場面 | *教師の関わり ◇研究の視点 ☆評価【観点】(評価方法) |
| つかむ(10) | ○本時の課題を知る。 ○知っている先生の動画を見る。先生が同じ状況でも言葉遣いや表情、声色が異なることを動画から読み取り、先生が考えていることや気持ちを推測する。 ○相手の状況や先生の気持ちを確認した後、相手を意識し、相手の気持ちを考えて自分の思いを伝えるにはどうすればよいかを考える。 | *状況や感情を表す言葉をヒントとしてカードで提示する。 ◇視点 I (1) 状況や場面の説明では流れがわかるよう写真や簡潔な文を使い、伝え方を考えやすくする。 |
| | 課題 自分の思いをうまく伝えるために大切なことは何だろう | |

| | | |
|------------------|--|---|
| <p>ふかめる (30)</p> | <p>○「かわきたんボランティア」の活動を通して感じた能登の被災者の方々への思いを書く（話す）。また、被災した人たちにどのようなメッセージを送ることができるのか考える。（緑丘中学校の生徒に向けて）</p> <p>○二人での会話や活動の中で自分が思ったことをどのように伝えたらいいか、こんなときにはどのような伝え方がいいかを考える。</p> <p>○伝えるときに気を付けたいことを考える。 ・「相手の思いを受け止めて言葉を伝えることは大切だな。」</p> <p>○伝えているところをビデオに撮り、振り返る。 ・「もっと大きな声で伝えたらいいな」「もっとゆっくり話してみよう」</p> <p>○撮り終えたビデオメッセージを見て確認する。</p> | <p>*相手がどのような思いでいるのかを想像しやすいよう、ヒントを提示し、それに対して自分はどのような言葉を伝えたいかを考えさせる。また、そのためにはどうしたらうまくいくか、うまく伝わるかを一緒に考え、考えの中から自分ができるようなことを選ばせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆他者の立場を尊重し、他者の感情や状況に配慮しながらも、自分の考えや感情を伝えるために必要な方法について考えをもっている。 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート、クロームブック)</p> </div> <p>★生徒の実態に応じた手立て <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 当日の指導案集をご覧ください </div></p> |
| <p>まとめ (10)</p> | <p>○振り返りシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えや気持ちをしっかりと相手に伝えることは大切だと分かった。 ・相手のことを意識して、相手の気持ちを考えながら伝えることも大切だと分かった。 </div> | <p>*ヒントカードを提示する。</p> |

本時のねらいを達成したときの生徒の姿

- ・学校生活や社会生活を送る上で、他者とさまざまな場面でコミュニケーションをとる。その中で他者を理解し、自分や相手の意図を的確に伝え合うことが大切だと気づいている。

人権尊重の視点に立ち学習活動を行ったときの生徒の姿

- ・お互いが相手を尊重し、適切に伝え合う方法を理解することで、コミュニケーションに対する意欲を高め、積極的に他者とかがわろうとしている。コミュニケーションは、人間が社会生活を送る上で欠かせないものであり、円滑な対人関係を社会参加や集団参加の基盤となることを理解している。